

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣
帰国報告書

最終報告提出日:2013年2月10日

派遣生氏名:大貫 俊夫
派遣時所属:日本学術振興会(特別研究員)
派遣形態:平成23年度冬学期個人派遣PD・助教

研究課題:中世ロタリングアにおける修道制と社会の相関関係

派遣先での活動

(1)派遣先の基本情報

受入研究機関:トリーア大学(ドイツ・トリーア) / Universität Trier
受入研究者:アルフレート・ハーファーカンプ教授 / Prof. em. Dr. phil. Dr. h.c. Alfred Haverkamp

(2)派遣期間

2012年3月28日-2012年12月20日(総日数:268日)

主な研究成果

(1)当初の計画の概要

本研究では、シトー会修道院を中世キリスト教社会において必要不可欠な中心としてとらえ、修道院との接触を通して人々がいかにして相互にコミュニケーションを行い、またいかなる背景・動機・形態で修道院と結び付いていたのかを明らかにするものである。題材としてトリーア大司教区(Orval, Himmerod)とメス司教区(St. Benoît-en-Woëvre, Villers-Bettlach, Stürzelbronn, Wörschweiler)の6つの修道院を扱い、これらをシトー会修道院が成立した12世紀からその宗教的牽引力が完全に衰退する14世紀半ばまでを通時的に見通すことで、シトー会修道院が社会に対して果たした役割を明らかにする。

(2)実際に達成された成果

①まず第一に、トリーア大学を拠点とすることによって一次史料および研究文献の収集が進んだ。コーブレンツにある州立中央文書館(Landeshauptarchiv)とトリーアの市立図書館(Stadtbibliothek)で閲覧した史料は、これまで収集してきたトリーア大司教区の修道院に関する史料群を補完し、研究をより深化させることにつながった。またトリーア大学図書館では、ドイツ中の図書館のネットワークを活用することで英・独・仏等で出版されたあらゆる研究文献にアクセスすることができた。

②最大の成果は、これまで取り組んできた博士論文「トリーア大司教区におけるシトー会修道院の保護形態」(Formen des Schutzes der Zisterzienserklöster in der Erzdiözese Trier vom 12. bis zur Mitte des 14. Jahrhunderts. Vergleichende Untersuchungen zwischen Romania und

Germania) をトリーア大学に提出し、最高評価 (summa cum laude) を受けたことである。ここでは、トリーア大司教区のシトー会修道院と社会との相互関係を証書史料をもとに分析した。これまで法制史・国制史的観点からのみ分析されていた修道院保護の問題を、宗教的・社会的観点から根本的に捉え直したことが特筆に値する。博士論文執筆の過程で受入研究者であるハーファークンプ教授と非常に有意義な議論を行うことができ、これは今後研究成果として結実するであろう。

③さらに、12～13世紀に限定してシトー会修道院の保護形態について一層の知見を得、考察を深めることができた。その成果として、修道院の持つ社会に対する霊的役割が修道院保護の形態・機能に本質的な意味を持ったことを論じた「中世盛期におけるシトー会修道院の保護形態」が『法制史研究』第62号に掲載される。

(3)今後の研究展望

今回の滞在では、主にトリーア大司教区のシトー会修道院に関する議論を深め、また成果として発表することができた。それと同時にメス司教区のシトー会修道院についても史資料を収集でき、これからさらなる分析に取りかかる前提条件が整った。その際特に注目しているのは、地域内シトー会修道院と教区教会の関係である。これまでのシトー会研究では、教区教会に対する権限は修道院にとって労働を伴わない収入の一部ととらえられており、それゆえ当初の修道会理念からの逸脱とみなされた。しかしこれを修道院と社会との重要な結節点としてとらえることで、新たな中世社会像が描けるに違いない。